

## シンポジウム

# ザ・シンポジウムみなと in 稚内 みなとが繋ぐ島々との夢海道<sup>ゆめかいどう</sup> ～稚内港を拠点とした観光振興について考える～

ザ・シンポジウムみなと実行委員会

稚内港を拠点とした観光振興を考える「ザ・シンポジウムみなと in 稚内」(北海道経済連合会などで作る実行委主催)が11月4日、稚内市のANAクラウンプラザホテル稚内で開かれ、市民ら約200人が参加した。離島の情報発信を続けるNPO法人離島経済新聞社(東京)の鯨本あつこ統括編集長が「島の光を観に行こう～離島地域の観光振興～」と題して基調講演。パネル討論では、道内外の関係者らが利尻、礼文両島を含めた離島観光の現状や課題、急増する外国人観光客を取り込む戦略について意見を交わした。

### 基調講演

## 『島の光を観に行こう ～離島地域の観光振興～』

<sup>いさもと</sup>  
鯨本あつこ氏

私は仕事柄、全国各地の離島に出張していますが、離島は時間もお金もかかり苦労するのが正直なところ。遠方の離島に行くなら、おおむね15万円はかかります。これは観光客にも共通することですが、「悪天候で島に渡れなかったら、帰れなかったら——」という心配もつきまといま。それでも行きたくなる魅力的な取組を行っている離島が、全国にはたくさんあります。利尻島や礼文島の参考にもなると思いますので、私の体験談から何例かご紹介しましょう。

東京の離島巡りをしていた時のことです。八丈島で何日間かフェリーの欠航が続きました。すると、滞在していた集落の方々が飲み会を開いてくれて、島のお寿司やお酒を楽しく頂きました。

八丈島では昔、島流しにあった流人を島民が手厚くもてなしたという歴史があり、そこから、この集落の飲み会は「欠航流人の宴」と呼ばれています。島民と一晚触れ合い、心温まる一生忘れられない思い出になりました。こうした、欠航したからこそ体験できる代替策があれば、観光客も行きやすくなると思います。

三重県鳥羽市の神島では、地元の小学生たちが島を案内してくれるガイドツアーに出会いました。子供の目線ならではの紹介が、かわいらしく新鮮で、島の観どころを事細かに説明できるその姿に感心しました。神島周辺の離島では、教育の場などを生かして子供ガイドを養成しています。生徒にとっても自分が生まれた島について学ぶいい機会、観光客に「すごいね」と

褒められれば、故郷への誇りも育つでしょう。

私は沖縄県的那覇に住んでいます。年間約100万人の観光客が訪れる石垣島に新空港ができ、最近では周辺の島でも観光客が急増していますが、同時に課題も出ています。伝統的な集落を水牛車が行き交う風景で知られる竹富島には、その人気から外部資本の新しいホテルの建設が計画されています。

ホテルが並び建つと浜辺の景観が失われてしまう恐れがあることから、建設をめぐって島を二分するような議論も起きています。600年続く伝統の祭りを守っている島民は、100年、200年先を見据え、世の中の流行に流されないよう常に闘っています。

最後に、長崎県五島列島の小値賀島(おぢかじ

ま)の話をしていきましょう。ここは一見、派手な要素のない島ですが、古民家を丸ごと借りて滞在できる取組に力を入れています。おもてなしも素晴らしく、年間2万人の観光客が訪れ、注目を浴びています。時間とお金がかかる離島ですが、工夫とアイデア次第で人は呼べます。日本の離島の魅力が広く知られるよう、私たちが努力していきたいと思っています。



いさと・あつこ 大手経済誌の広告ディレクターなどを経て、10年に離島経済新聞社を設立。全国の離島取材し、離島地域の情報を発信し続ける。現在、沖縄県在住で、美ら島(ちゅらじま)沖縄大使も務める。

## パネルディスカッション

### インバウンド新時代に向けた課題と戦略的取組について

他地域より少ない外人客

藤崎

道内周遊に宗谷位置づけ

小松

注目される登山、スキー

渡辺

地域での人材育成も必要

鯨本

食事は宗教にも配慮して

伊藤

**藤崎** 政府は2020年までに年間2千万人の外国人観光客を受け入れるという目標を示しています。宗谷管内でも外国人観光客は増えていますが、他の地域に比べると少ないのが現状です。観光の現場で外国人を受け入れた際に感じている課題や、増加に向けた取組について、パネリストの皆さんにお話ししたいと思っています。

**渡辺** 利尻島ではここ数年、外国人観光客が明らかに増えました。特に、冬の利尻山で登山やスキーを楽しむ外国人客が多く、ヨーロッパから8割、北米から2割を占めています。平均で4～5日、1週間の長期滞在者も多いです。ただ、島内にはクレジットカードを使える飲食

店が少ないほか、ユーロの両替ができないと困っている外国人も多く見かけます。(グレンデ外をスキーなどで滑る)バックカントリー目的のスキーヤーも、日本より海外の方が多いです。今後は海外に向けた情報発信を、より積極的に行っていくことが大切ではないでしょうか。

**鯨本** 海外の雑誌やウェブサイトにも、日本の離島情報を掲載するのは効果的です。例えば、東京の新島(にいじま)が外国のメディアで紹介された途端、突然外国人がどっと押し寄せ、島民が驚いたという話も聞きます。

**伊藤** 弊社では道内を訪れる外国人観光客の満足度調査を行っています。全般に評価は高く、特に「接客サービス」は事前の期待度を上

回りましたが、残念ながら「食事」が期待度以下でした。食事は国によって風習や好みが異なるので、全ての国に対応するのは難しいでしょう。ただ、最近(東南アジアなど)イスラム教徒が多い国の観光客も増えています。20年の東京五輪に向け、(戒律で豚肉や酒の摂取が禁じられている)イスラム教徒に配慮した料理「ハラール」を提供できる飲食店を増やす必要があると考えます。

**小 松** 北海道は国内有数の食料供給基地で、豊かな自然もあります。国の期待も高く、日本全体の観光の魅力を北海道が高めてくれるといった報告もあるほどです。五輪開催や新幹線開業で世界の目が日本に向けられている今、その視線を北海道、そして宗谷に向けてもらう努力が必要です。人口減少で地方は大変ですが、やれることはあるはずで。

**藤 崎** 今季初めて稚内、利尻、礼文間のフェリーや路線バスが5千円で4日間乗り放題になるフリーパス事業が行われ、大変好評だったと聞いています。今後は、このような官民や自治体間の連携も重要になってくると思いますが、この点についても議論を深めていきたいと思ひます。

**伊 藤** 稚内市、利尻町、利尻富士町、礼文町の4市町が一体となって取り組んだ観光商品は今回のフリーパスが初めてで、宗谷にとって画期的な事業でした。近年、観光客の減少が続く中、「1自治体だけにぎわっても仕方がない、地域一体で観光客を呼び込もう」という思いから始まりました。パスの購入は4市町内の宿泊施設に2泊以上することを条件にしましたが、宿泊場所もうまく分散しました。離島観光は中

高年層が多い傾向がありますが、パスを利用した366人のうち半数は10~40代で、若年層の個人客を呼び込むことにも成功しました。来年以降は外国人観光客にも宣伝したいと思います。

**渡 辺** 利尻、利尻富士、礼文の3町の観光協会が連携して、両島の観光情報が一目で分かるウェブサイトをつくるなど、連携して発信力を高めていくことも必要だと考えます。私個人としては、インターネット交流サイトのフェイスブック上で利尻島の観光情報を更新していますが、ネット上では情報が一気に広がるので、利尻島のファンが増えていると感じます。冬にも発信することで「冬季は利尻で遊べない」というイメージを拭い去ることができ、冬季に来てくれる日本人観光客も目立っています。

**鯨 本** 鹿児島県の奄美群島にある五つの離島が連携し、それぞれの島の情報を集めた新聞の発行を行っています。現在はインターネットに切り替わっていますが、一つのウェブサイトを5島の担当者が協力して更新しています。現代は誰もがパソコンなどを使って情報を発信できる時代です。こうした発信力のある人材を地域で育てていくことも必要ではないかと思ひます。

**小 松** 開発局は道内の道の駅を巡るスタンプラリー事業に協力していますが、岬めぐりでもラリーは可能です。道内の周遊ルートに宗谷を位置づけることが大事で、何が出来るか官民で知恵を出し合ひましょう。

本稿は平成27年12月9日北海道新聞 旭川・北見版に掲載された記事を同社の了解のもとに転載したものである。

## コーディネーター



### 藤崎 達也氏 (ふじさきたつや)

稚内北星学園大学  
情報メディア学部 講師  
知床でのネイチャーガイド会社の経営経験を生かし、13年から稚内北星学園大学で観光を通したまちづくりを教える。著書に「観光ガイド事業入門」(学芸出版社、12年)など。

## パネリスト



### 鯨本あつこ氏 (いさもとあつこ)

NPO 法人離島経済新聞社  
統括編集長  
大手経済誌の広告ディレクターなどを経て、10年に離島経済新聞社を設立。全国の離島取材し、離島地域の情報を発信し続ける。現在、沖縄県在住で、美ら島(ちゅらじま)沖縄大使も務める。



### 伊藤 誠氏 (いとうまこと)

株式会社 JTB 北海道  
MICE・ソリューション営業課  
JTBで、道内で行われる国際会議や報奨旅行などビジネス・トラベルの取り扱いに関わるほか、道北担当者として2次交通対策など地域の観光振興策にも取り組む。



### 渡辺 敏哉氏 (わたなべとしや)

まるぜん観光株式会社  
代表取締役  
生まれ故郷の利尻島でペンション経営の傍ら、利尻登山やシーカヤックツアーなどの自然ガイドも務め、利尻の四季の魅力を伝えている。日本山岳ガイド協会認定ガイド。



### 小松 正明氏 (こまつまさあき)

北海道開発局  
稚内開発建設部 部長  
82年に道開発庁入り。10年から釧路市副市長を2年9カ月間務めた。スローライフや生涯学習によるまちづくりを提唱する。15年4月から現職。

### 主催／『ザ・シンポジウムみなと』実行委員会

北海道経済連合会、(一社)北海道商工会議所連合会、北海道港湾協会、(一社)寒地港湾技術研究センター、(一財)港湾空港総合技術センター、北海道、国土交通省北海道開発局

協賛／(一財)北海道開発協会、(一社)北海道開発技術センター、北海道港湾振興団体連合会、北海道港湾空港建設協会、北海道ポートエンジニアリング協会、(一社)日本マリン事業協会、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構、稚内商工会議所、(一社)稚内観光協会

後援／稚内市、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、北海道新聞社、NHK 旭川放送局、HBC 北海道放送、STV 札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、TVh テレビ北海道、UHB 北海道文化放送